

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300059
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	まちなか
所在地	四国中央市川之江町字馬場2083番4
自己評価作成日	H27年5月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホームの名称どおり、川之江の“まちなか”に位置し、外出するにはとても便利な場所にありません。 家庭的な事業所で利用者と職員の距離も近く、まちなかでの生活を楽しくで頂けるような支援をすることで、安心して楽しく生活できるような雰囲気づくりに努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所前の駐車場にテーブルを出して、おやつの時間を持つこともあり、近所の方が声をかけてくれたりします。2ヶ月に一度、保育園から園児の訪問があり交流を続けており、一緒に作った貼り絵は保育園の玄関に飾ってあげている。 読書好きの利用者には、興味のある書物を読む楽しみを続けられるように、図書館に出かけられるよう支援している。利用者が自宅に戻りご家族と一緒に過ごすような機会を大切にしており、ご家族には、ご本人の食事形態や薬情報等を詳しく説明し、又、困った時にはいつでも職員が駆けつける旨を話してサポートしている。 週2回、職員が食材の買い出しに行っており、時には利用者と一緒に行き、利用者の希望も取り入れた食事を手作りしている。若い男性職員は、本を買って勉強したり、野菜のあく抜き等の仕方等、利用者に教わったりしながら、彩りや盛り付けにも工夫している。調査訪問時、利用者は米を研いだり、炊き込みご飯の具材のごぼうを手馴れた手つきで笹がきしたりしていた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

まちなか

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

井原 理江

評価完了日

H27年5月13日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 日常会話の中で職員の話題になる事が多く、職員間の共有につながっている。また、職員会議では理念を基本に話し合いをしている。 (外部評価) 法人理念「人生の継続性を大切にし、自分が自分として生きていく」「尊厳の保持」「自立支援」のもと、職員は「利用者にとってより良い支援」について話し合いながらケアに取り組んでおり、月によっては、「笑顔で挨拶しよう」「もっと外出しよう」等、具体的な目標を立てて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園児やふれあい相談員の来設、商店街での散歩や買物、近所のお好み焼きやさんでの外食、施設の隣の美容室での散髪など近隣の人との交流や地域行事に参加している。 (外部評価) 事業所前の駐車場にテーブルを出して、おやつの時間を持つこともあり、近所の方が声をかけてくれたりする。2ヶ月に一度保育園から園児の訪問があり交流を続けており、一緒に作った貼り絵は保育園の玄関に飾ってくれている。前回の運営推進会議時に、保育園の園長から「園行事に利用者ご家族も一緒に来られてはどうか」と提案があり、先ずは6月のバザーへの参加を検討している。	事業所がある地域は、高齢化に伴い最近では町内行事や集会も無くなっている現状にあり、町内の方からは、運営推進会議等を通して、「事業所が町づくりの活性化の発信力となってほしい」との要望がある。事業所では、「活気ある町づくりに少しでも貢献していきたい」と考えていた。今後、地域のニーズを探り、事業所の特性等も活かしながら、地域のコミュニティーの拠点となるような活動にも取り組みをすすめていってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設見学をしていただいたり電話による介護相談など行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 保育園児とのふれあいや避難訓練など、状況を報告するだけでなく、会議参加者にも実際の活動を見てもらい、報告とアドバイスをいただいている。また、ご家族にも参加していただけるよう、書状にてご案内をしている。	
			(外部評価) 会議には、町内の商店主が声を掛け合って参加してくれている。会議に参加した利用者が市の担当者に、「年金について」質問したり、「地域の人達とみんなで出かけた」等と発言することもある。ご家族には全員に毎回、会議案内を出し、さらには会議内容についても報告を行っているが、会議への参加にはつながっていない。これまでは、町内の方が出席しやすいように店の定休日(木曜日)の午後に開催していたが、五月の会議時、「ご家族が参加しやすいように、土・日曜日に行ってはどうか」と意見があり、出席者の賛同を得て、次回からは日程を変更する予定となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ふれあい相談を通じて、意見交換や改善、向上に努めている。市役所へ申請や届けを提出する機会に状況など伝える機会にしている。また、利用者の事や施設の事で困った場合には、都度相談をして助言を頂くようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当職員からケアや避難訓練等について助言等がある。ふれあい相談員の訪問が2ヶ月に一度あり、利用者とお話する時間を持っており、馴染みの関係となっているようだ。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠はせずに、自由に外のベンチや花壇などに行くことができるようにしている。ケアや言葉遣いなど職員で確認や点検を行っている。	
			(外部評価) 利用者が思い思いに玄関前に出て、花壇に植えたネギやジャガイモの世話をしたり、サクラamboを取ったりできるよう、職員は見守りながら支援している。天気の良い日には、駐車場にご自身で布団を干す利用者もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 申し送りや職員会議などで、不適切なケアがなかったか話し合っている。四国中央市虐待対応マニュアルを職員がいつでも閲覧できるようにすることで、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員の多くが制度がある事を知ってはいるが、理解や活用が出来ていないので、今後、勉強会を行っていききたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、本人とご家族に十分な説明を行い、納得していただいてから契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時には、近況を報告し、意見、要望など聞きながら反映、実践につなげている。毎月家族に、近況を手紙で送付している。 (外部評価) ご家族へは、法人本社から毎月のモニタリングで話し合った利用者の生活状況や運営推進会議の案内・内容、又、年数回発行する法人の「すろーらいふ新聞」等で情報発信している。場合によっては、事業所から直接電話したり、手紙を出してご家族の要望等を聞いている。ご家族と職員、又、ご家族同士の交流を図りたいと、お花見やクリスマス会開催時には、ご家族を誘っているが実現には至っていない。職員の異動や管理者の交代があれば、ご家族の来訪時や毎月の報告時に知らせている。	管理者は「最近、ご家族との接点が少ない」と感じており、「ご家族との輪を広げていきたい」と考えている。今後、ご家族との食事会を設けたり、保育園行事にご家族と参加する等、検討課題としている。今後さらに、ご家族と一緒に活動したり勉強したりできるような機会を工夫して、ご家族との信頼関係をさらに深めていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員会議にて運営について話す機会を設けている。	
			(外部評価)	
			「職員の定着」に向けて、職員が管理者や法人代表者に相談しやすい環境作りに努めている。職員は「職員個々の意見が尊重されている。子育てと仕事の両立が図れるよう配慮してもらっている」と話していた。年4回開催される市内グループホーム交流会には、新人職員も参加し、研鑽の機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者は状況を把握している。職員がいつでも相談できる環境を作っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員一人ひとりにあった研修を考え、受ける機会を作っている。日常的にOJTを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム交流会には多くの職員が参加するようにして、情報交換の場になっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			表情や行動を観察しながら、居室で1対1でゆっくりと話ができる時間を作り、親身になって一緒に考えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の意見を尊重し、できる限りの支援を心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス内容の説明と共に通院やインフォーマル、フォーマルなほかのサービスについての活用を情報提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 何事も利用者さんと一緒にする事を心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は、一緒に居室の整理整頓や掃除を行ったり、家具の配置や危険な物はないかなど、本人の生活しやすい環境づくりに無理なく関わっていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時は馴染みのある道を通ったり、慣れ親しんだお店での買物に行くなどし、知人に会った時は、ゆっくりお話をさせていただいたりしている。また、自宅に帰る機会も作っている。 (外部評価) 読書好きの利用者には、興味のある書物を読む楽しみを続けられるように、図書館に出かけられるよう支援している。利用者が自宅に戻りご家族と一緒に過ごすような機会を大切にしており、ご家族には、ご本人の食事形態や薬情報等を詳しく説明し、又、困った時にはいつでも職員が駆けつける旨を話してサポートしている。調査訪問時、「近くまで来たので」とご家族の来訪があり、職員は笑顔で迎えて、利用者とは歓談できるよう配慮していた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングの椅子やテーブル、家具の配置替えや食事の席替えなど行い、会話がスムーズに行えるような工夫をいつも考え実践している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も、本人や家族に会ったり、連絡は取り合うことができている。近況を報告し合い、良い関係を築けている。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や職員だけでは決められないことは、家族にも相談しながら本人にとって一番良い支援を考え行っている。 (外部評価) 介護保険の更新時に作成し直すフェースシートには、「これまでの生活歴、現在の生活、これからの生活」を明記しており、新しく得た情報はその都度追記して、日々のケアに活かす仕組みを作っている。日記を付けている利用者は、職員にも見せてくれるため、ご本人の意向や希望を知る手がかりになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の話題や会話の中、アルバムを一緒に見るなど機会を作り、把握に努め、家族に連絡や面会に来られた際にも伺うようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 家事や炊事などを通じて、また、夜間の睡眠状態からも個々の現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人やご家族から、意見、要望など話し合いをして取り入れながら介護計画を作成している。承認をいただく機会にも話し合いをして意向の反映に努めている。項目はわかりやすく、現状で一番大切と思われるものになっている。	
			(外部評価)	
			毎月、職員会でモニタリングを行い、6ヶ月ごとの介護計画の見直しにつなげている。又、介護計画に沿った支援ができるよう、介護記録の上部に支援内容に番号を振って提示し、日々の介護記録内のチェック欄に番号を記入して、モニタリングしやすいよう工夫している。家事や花壇の手入れ、読書、趣味活動等、利用者の求めていることや持っている力を活かして、利用者個々が意欲的に生活できるような計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録や介護日誌の他にも、水分量、血圧の変動、排泄など医師からの指示や相談、報告が必要な場合には、別に記録をして共有している。	
			(自己評価)	
			ニーズに応えられるように職員間でより良い案を話し合いながら柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ニーズに応えられるように職員間でより良い案を話し合いながら柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	
			(自己評価)	
			本人が必要な地域資源を活用しながら、安全で豊かな暮らしが楽しめるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			本人が必要な地域資源を活用しながら、安全で豊かな暮らしが楽しめるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からのかかりつけ医を受診できるようにしている。ご家族や職員が付き添い、緊急時は必ず職員が付き添い、十分な情報の共有を行っている。	
			(外部評価) 利用者それぞれの以前からのかかりつけ医を受診できるよう、職員が付き添って支援している。ご家族が付き添って受診する際には、前もって医師に電話したり、手紙を託す等している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 記録などを活用し、スムーズな情報提供と、対処方法、相談、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は日々の記録や病歴、投薬情報の提示や口頭でも申し送りを行っている。入院中も訪問や連絡のやり取りにて病院関係者との関係づくりを行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階に本人やご家族と重度化した場合の方向性について話し合うようにして、職員全員で共有している。必要に応じて、病院関係者にも同席して頂き、話し合いの場を設けている。	
			(外部評価) 入居時には、希望があれば看取りまで支援できる旨を伝え、事業所でできること、できないことを説明している。ご家族は「できるだけ事業所で過ごしたい」、利用者のほとんどは、「病院ではなく、住み慣れた場所で最期を迎えたい」と希望があるようだ。ここ数年、往診や訪問看護を利用し、救急搬送後に亡くなられたケースはあるが、事業所内で看取った事例はない。現在、協力医療機関の24時間対応は難しいようだが、今後さらに、利用者やご家族の希望に沿った支援に向けて、医療機関の協力体制や、職員の看取りに関する知識やケア力の充実に取り組んでいかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時に対応できるよう、勉強はしているが、全員が救命講習を受けていないので、機会を設けたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防避難訓練の他にも地域の災害時の避難訓練に参加している。運営推進会議で、災害時の協力依頼についても話し合いをしている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の立会いのもと、夜間想定で避難訓練を実施している。又、地域の災害訓練にも利用者と参加しており、指定された避難場所まで、利用者の足では30分かかると分かった。運営推進会議時に避難訓練を行ったり、話し合ったりして、近隣との協力体制づくりに努めており、近所の方からは「避難経路や避難場所の提供、利用者の見守り等、できることは助け合いましょう」と言ってもらっている。事業所からも、「災害時の避難場所として事業所を使ってほしい」ことを伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 羞恥心やプライバシーに関わることは、同性での声掛けや対応、身体状況の確認を行っている。	
			(外部評価) 職員は、「自分がされたり言われて嫌なことは、しない言わない」という理念を念頭に置き利用者にかかわっており、着替えの際には、利用者を選んでもらったり、一緒に選ぶ等して利用者の意向に沿う支援を心がけている。調査訪問時には、10時半過ぎに朝食を食べている方や昼食時にはご自分の力で食事する利用者を気長に見守り、支援する様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を受け入れながら、自己決定できるように選択肢を作り、本人に決めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望を尊重し、本人と一緒に一日のタイムスケジュールを考えるようにしている。生活リズムやペースにあった暮らしが送れる支援を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問美容での散髪ばかりでなく、美容室まで行ったり、衣類は一緒に買い物に行くなど、おしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒にメニューを考え、調理の下ごしらえを手伝って頂くこともある。嗜好を聞き献立に反映し、食器洗いなどの片づけも一緒に行っている。外食の機会も設けている。行事やイベントなどでご家族と一緒に食事して頂けるよう計画を立てたい。	
			(外部評価) 週2回、職員が食材の買い出しに行っており、時には利用者と一緒にいき、利用者の希望も取り入れた食事を手作りしている。若い男性職員は、本を買って勉強したり、野菜のあく抜きや仕方等、利用者に教わったりしながら、彩りや盛り付けにも工夫している。調査訪問時、利用者は、米を研いだり、炊き込みご飯の具材のごぼうを手馴れた手つきで筐がきしたりしていた。職員は、利用者と同じ物を一緒に食べている方もいるが、お弁当を持参している方もあった。事業所では、グループホームの食事支援のあり方を踏まえて、今年度中には、全職員が利用者と同じ食事ができる体制を作る予定となっている。今後、ご家族と一緒にお花見弁当を作り、出かけるような計画も考えていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 生活健康表の作成と記録。栄養バランスや水分量の確保ができるように好みの物を提供できるように配慮、支援している。食事の形態や箸、器などの道具も本人に合った物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後や起床時、就寝前には、必ず、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施し清潔を保っている。外出後はうがいをを行うようにしている。義歯は毎日就寝時に洗浄剤を使用するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を作成、記録し、排泄パターンを把握してトイレの声掛けや誘導を行っている。トイレに行くのが大変な利用者さんには尿瓶やポータブルトイレを居室で使用して頂き、排泄の自立を支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握して、日中はトイレで排泄できるよう支援している。夜間は、入居前の排泄習慣にできるだけ合わせて支援しており、尿瓶やポータブルトイレを使用するケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維質の多い食事の配慮や、腹部のマッサージや、運動、散歩など取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援し、お湯の温度も好みに合わせて、その都度調整している。浴槽に一人で入ることが難しい利用者さんには、職員2名で介助し安心して入浴していただいている。	
			(外部評価) 1日おきの入浴支援を基本としており、利用者の好みのお湯剤を使用して、全員が湯船でゆっくりと浸かれるよう支援している。毎日、ご自身で浴槽を掃除してお湯張りし入浴する方があり、ご自分の衣類は、その際に洗濯している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣や、体調などを配慮し、安心してゆったりと休めるように支援している。室温の調整や冬場は加湿器を設置するなどして安眠できる環境づくりに努めている。日中でも、体調を見ながら、午前、午後と臥床時間を作り支援してる人もいます。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬について説明し、間違った用法や用量が無いようにしている。わからないことや様子に変化が見られた際は、主治医や薬剤師に迅速に報告と指示をもらうようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事や趣味など一人ひとりが活躍できる場面を作るようにしている。ドライブや外食など全員で出掛け、気分転換ができるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る限り要望は受け入れ支援している。外食の際は、事前に店の下見に行き、話をして協力してもらっている。	
			(外部評価) 日常的には、商店街を散歩したり、買い物に出かけられるよう利用者個別に支援している。買った洋服等は、夜勤職員に「これ、こうきたんよ」と嬉しそうに披露されるようだ。又、利用者の希望する美容院を利用して、おしゃれを楽しめるよう支援している。個別に近所のうどん屋やお好み焼き屋で外食したり、時には回転寿司に行くこともある。少し離れた場所にある、法人デイサービスで琴の演奏会やクリスマス会が催される時には、参加できるよう支援している。職員は「手作りのお弁当を持って、みんなでピクニックにも出かけた」と話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 商品を選んだり支払いをしてもらうなど、できることを把握しながら一緒に買い物に出かけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの申し出に応じ、電話をしたり、手紙を出したりできるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物を置いたり、季節の花を飾ったりしている。竹炭を置き消臭を行っている。テレビの音量や採光、照明の配慮や室温や換気にも気を使い、居心地よい環境づくりに取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関の下駄箱の上には、利用者が描いた水彩画を飾り、廊下の棚には、ご家族が提供してくれた竹炭を置いていた。台所と居間が斜向かいに位置しており、それぞれにテーブル席を配置して利用者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。壁には、毎月、利用者とアイデアを出し合いながら作っている貼り絵を掲示しており、6月はアジサイと雨蛙が題材となっていた。居間には、空気清浄機を設置していた。利用者がコーヒーやお茶を自由に飲めるよう、居間にポット等が用意されていた。調査訪問時、利用者は新聞を読んだり、日記を書いたりして過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 車椅子の人でも自由に行き来できる空間づくりに心がけている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の使い慣れた馴染みの物を入居の際持ってきていただき、入居後も本人とご家族と相談しながら使いやすいように配置している。	
			(外部評価) 居室には、テレビやたんす、カレンダー、時計等を持ち込んでおり、習字作品や敬老の日に職員が贈った「いつも笑顔でありがとう」等と書かれた「感謝状」を貼っているところもあった。ベッドを好まない利用者には、畳を敷いて対応しており、布団はご自分でたたむようだ。風邪を引きやすい方の居室には、事業所で加湿器を用意して対応している。個人で新聞を取ったり、図書館で本を借りてきたりしている方もあり、居室でゆっくりと読んでいる。調査訪問時には、懐かしいアルバムを見せてくださる利用者があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) コーヒーやお茶の好きな人がいつでも自由に飲めるようにリビングにポットを置いている。トイレや居室などわかりやすい表記や表示にしているようにしている。	